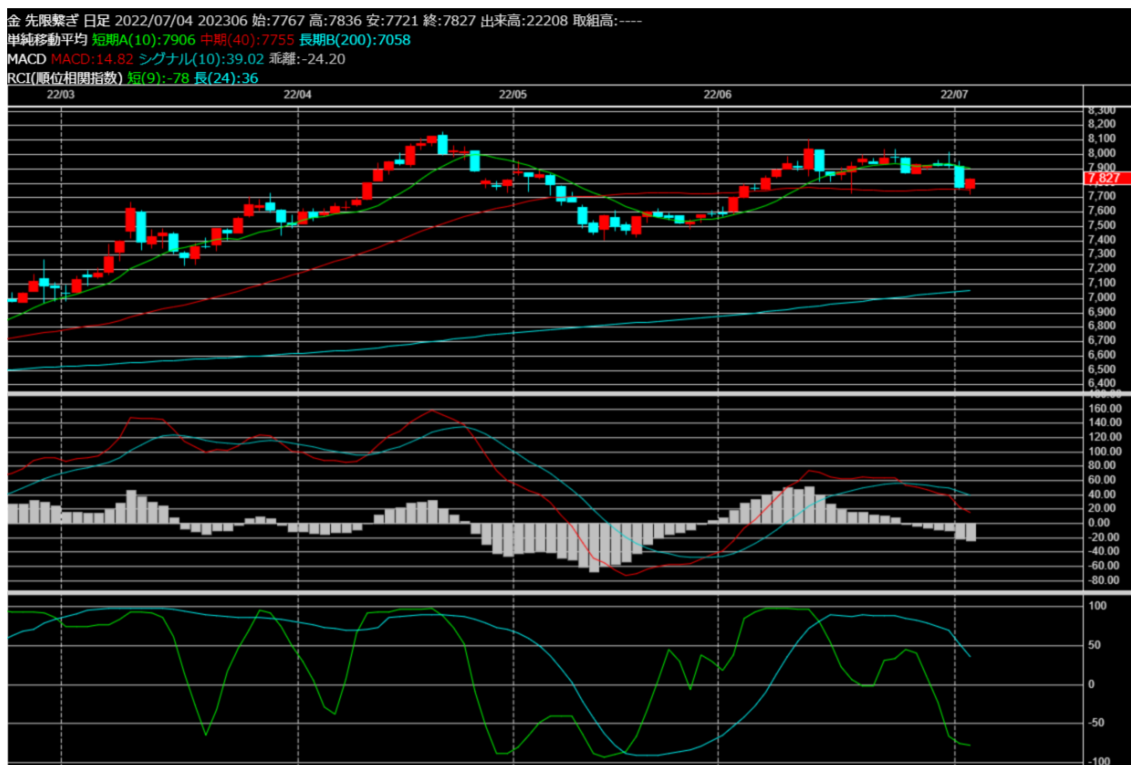


<金標準先物、金利低下の円高要因で 7700 円割れに注意・・・>



(出所：オアシス)

先週に ECB 年次フォーラムでパウエル FRB 議長は「米国経済は実際のところ、かなり力強い状態にある」と評価しつつ、金融引き締めについて「成長ペースを落とし、供給が追いつけるようにすることが目的だ」と議長は説明している。

また個人消費 PCE でも事前予想を下回るなど、インフレ高の悪影響が個人消費を低下させ、またユーロ圏消費者物価指数でも 8.6%と高いインフレ率を示した事で、欧米の金融当局による金融引き締めと欧州を中心としたエネルギー危機の中で成長が鈍化する可能性が高まりを見せている。債券市場で逃避から長期債が買われ金利は低下するなど、為替市場では巻き戻しの円高：ドル安が進んでいる。特に欧米のハードランディングの動きは、投資においても現金化の動きを強めており、NY 金も同様に 1800 ドル割れを示すなど、下値追いを余儀なくしている。そのため金標準先物は円高：海外安が重なり、更なる下値追いの値動きに注意が必要と思われ、今週の FOMC 議事録や雇用統計の発表を受けた 7600 円台を試す値動きは注意が必要と思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では **MACD** が下げながら、**シグナル**も下げだしており、RCI でも**短期**が低下し、**長期**は下げるなどオシレーターの指数は弱気を示している。特に日足が **10 日移動平均線**で戻りが抑えられ、**40 日移動平均線**を下回る可能性が高まるなど、今週中の 7750 円割れには注意したい。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,451,000 円(2022 年 7 月 4 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022 年 7 月 4 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>